

医学部医学科 皮膚科学講座

研究テーマ：隆起性皮膚線維肉腫病理組織診断のための新規抗体キットの開発

キーワード： 病理組織診断、皮膚悪性腫瘍、抗体キット

予測される技術成果・効果：隆起性皮膚線維肉腫の診断精度の向上及びその手術範囲の正確な確定

事業化が期待できる分野：特許化されたモノクローナル抗体の産生とそれらを組み合わせたキットの開発、販売

概要

隆起性皮膚線維肉腫の確実な組織診断ができ、かつ、適切な切除範囲を判断できる技術の確立を目標とする。皮膚線維腫と隆起性皮膚線維肉腫のサンプルを用いて cDNA マイクロアレイ解析を行い、隆起性皮膚線維肉腫における特異的発現遺伝子を明らかにし、それに対する抗体を作製する。



ふり がな なかにし げん
名前 中西 元
職名 講師

主な経歴： 岡山大学医学部歯学部附属病院助手 (1999年から2008年)、滋賀医科大学皮膚科講師 (2008年から現在)
所属学会： 日本皮膚科学会、皮膚悪性腫瘍学会、日本研究皮膚科学会 (評議委員)

■ 内容

1. 現在の問題

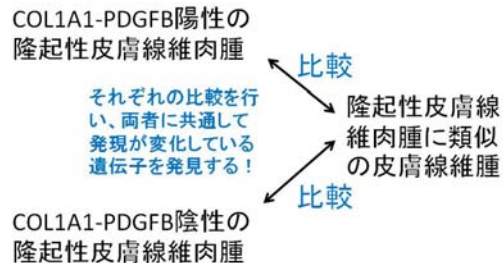
- 良性腫瘍である皮膚線維腫と悪性腫瘍である隆起性皮膚線維肉腫は組織学的に非常に類似しており、両者を確実に区別できる分子マーカーがないため、しばしば適切に診断できない。
- 隆起性皮膚線維肉腫の腫瘍細胞は線維芽細胞に類似しており、腫瘍細胞の有無を確実に証明できないため、切除後、しばしば再発する。

2. 現在までに得られた成果
とそれにより利用可能な生体試料

- 隆起性皮膚線維肉腫には腫瘍特異的な融合遺伝子であると考えられているCOL1A1-PDGFB遺伝子の発現のあるものとなないものの2種類があり、それぞれの生体試料
- 組織学的に隆起性皮膚線維肉腫と区別が困難であったが、再発などがなく、臨床的に良性の皮膚線維腫と診断された生体試料

European Journal of Dermatology, 2007年、発表
European Journal of Dermatology, 2008年、発表
Journal of Dermatology, 2009年、発表

3. そこで、cDNA microarrayを用いた網羅的遺伝子解析を行う



4. 特異的マーカーに対する抗体作成と臨床検体を用いたその抗体の感度、特異度、尤度比を検定して評価する

特許・共同研究等の状況	なし
希望する連携形態	共同研究 受託研究 その他
希望提携業種	バイオテクノロジー (抗体産生、マイクロアレイ)